

まちの話 だい



5月28日 | 広がる海外支援の輪

島田榛北地区労働者福祉協議会から、ランドセル40個が寄贈されました。

同会では、市が昨年に引き続き行なっている、モンゴル子どもたちへのランドセル寄贈の取り組みに賛同し、会員に協力を呼び掛け。鈴木勝人会長は「新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動が限られる中、福祉のために今できることは何かを考えた。ぜひ使ってほしい」と話しました。

5月22日 | 赤ちゃんを迎える準備

5月22日から「お世話体験用赤ちゃん人形レンタル事業」が始まりました。

健康づくり課では、オムツ交換や着替えなどの育児体験が自宅でできるよう、人形と着替えセット、保健師による説明DVDを無料でレンタルしています。体験した夫婦は「パパママ講座が中止になってしまい不安を感じていた。体験する機会を持って安心した」と話していました。



5月29日 | 看護への誓いを新たに

市立看護専門学校で「看護を語る会」が開催され、2年生37人が「私の目指す看護」について、それぞれの目標を発表しました。

学生たちは発表後、1人1人がろうそくを持ち、ナイチンゲール像から採火。看護の意味を見つめ直し、誓いを新たにしました。学生たちは「知識や技術を学ぶだけでなく、患者の立場に沿った看護ができるようになりたい」と話しました。